



鈴木雅博町長に聞く

# 時代のはざまに

今回の特集では、昨年10月におこなわれた町長選挙で2期目再選を果たした鈴木雅博町長に、大口町への想いとこれからの大口町の進むべき道についてお聞きしました。

1期目4年間、そして再選に関しての

感想をお聞かせください。

1期目は無我夢中のうちにあわただしく過ぎたというのが正直な感想です。もともと自分は行政出身ではなく、行政経験がない中での町政スタートでした。

行政のこと、大口町のこと、そして大口町民のことを知るための勉強の4年間でした。1期目を終え、今大口町のために何をする必要があるかの考え方がまとまってきた自負があります。

今回の選挙でありがたいことに再び町民のみなさんから負託を受け、

自分の成してきたことを認めていただいたと感無量です。

票の重みをしかと受け止め、2期目の任期を全力で全うしたいと思えます。



▲職員に出迎えられ、2期目初登庁

インフラ整備を公約に掲げておられますが、  
具体的な内容をお聞かせください。

大口町内の道路は、ほとんどが50年前に整備されたものです。50年たった今、現実にはすぐわかない部分が多々出てきています。自分がいうインフラ整備とは、そういう部分を現実にあつたものに作り変えていこうというものです。

50年前、大口町はほとんど農地で、必要なのは農道でした。圃場整備(土地改良事業)により、町内に点在する集落と集落を農道で結びました。農道の幅は4m。リヤカーや耕運機がすれ違つことができればよかつた



▲町内を結ぶ農道



▲6車線化工事が進む国道41号線(外坪)

からです。

それから50年。今や道路を主に通行するのは自動車です。50年前と同じ4m道路では車がすれ違つのが困難です。私も田んぼの農道を車で走行していて落ちそうになった経験があります(笑)。4m道路では大口町の大動脈である国道41号と155号からの交通量を町に流す毛細血管の役割を果たすことはできず、大動脈瘤ができてくる状態です。幸い、4m道路の両側は盛り土となつていて町の土地なので、直角に舗装

すれば今の時代にあつた6m位の道路に作り変えることができま す。また、同時に防犯灯を建てれば暮ら しの安全安心にもつながります。一番大きい効果は、災害時に安全輸送 ができるようになることです。



大口町の誇れるものとは

何だと思えますか？

大口町はまぎれもなく田舎です。しかし、実はこんな便利な田舎まちはありません。豊かな田園風景に恵まれながら、一方で名古屋空港や駅、高速道路のインターも近く、名古屋市中心街まで車で20分たどり着きます。そして、地盤も固いので比較的災害に強い安全安心なまちといわれています。生活面での利便さ、豊かさに町民一人ひとりが気づいてほ

物資輸送が途絶えると、集落が孤立することになります。南海トラフ地震の危険性が叫ばれている今、災害に強いまちにすることは急務だと考えています。  
50年前に初めて農道を作つた先人の苦勞を思いながら、今こそ時代に合つた町道に作り換え、20年、30年先の暮らしをもよくしていけるような生活基盤を整えていきたいと思つています。



▲先を見据えた想いを語る鈴木町長





▲堀尾金助とその母（豊田）



▲白山古墳群・仁所野遺跡（下小口）



尾張の拠点小口城



▲堀尾跡公園（裁断橋）（豊田）



▲織田街道と街道を示す道標（中小口）



▲小口城址公園（中小口）

しいと思います。

そしてもう一つは、胸を張って誇れる歴史があるということだと思います。国宝松江城を築城した戦国の名将堀尾吉晴公の生まれ育った土地であり、小口城址（織田広近築城）という城跡もあり、木之下城（犬山市）から小口城（大口町）までを結ぶ路、織田街道という歴史上重要な役割を果たした街道も存在します。大口町は知名度が低く、残念ながらもまだ「小牧市の北にあるまち」「犬山市の南にあるまち」というようないわれ方をしますが、「大口町」としてもっと世に知られるよう、ブランド力を高めていかななくてはと思っています。

### 取材にて

50年前の企業誘致が功を奏し、貧しいむらから県下屈指の財政的に豊かなまちに生まれ変わった大口町。それから半世紀たち、「今、世の中はあらゆる面で転換期を迎えている」と鈴木町長は言います。社会は変化し続け、50年前とは明らかに価値観や生活様式が異なっています。

大口町も時代の流れに従い、今こそ時代に合った改革に取り掛かるときがきていると意気込みを語っておられました。

鈴木町長の座右の銘でもある「飲水思源」。この言葉が表すとおり、50年前の先人の偉業を活かしつつ、これからやらなければならぬことにつなげていく、いわば「点と点を結ぶ」仕事が自分の使命であると語っておられました。そしてまた、数十年経っても、まちがその時代に変化させていけるよう足掛かりを作り、大口町で生まれ育った若者たちが誇りをもてるまちを目指していきたいと志を新たにしておられました。

町長いわく、今こそが時代のはざまであり、転換期。私たち自身も、自分の住むまちに関心を持ち、大口町の財政面の豊かさに甘んずることなく、また目先の生活の無難さだけを考えるのではなく、一人ひとりが常に先を見据えた問題意識を持ち続けなければならぬと感じました。私たちのよりよい暮らしのために、また私たちのよりよい大口町のために。